

---

# バカと妖怪と召喚獣

閃光の伯爵

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと妖怪と召喚獣

### 【NZコード】

N0175Y

### 【作者名】

閃光の伯爵

### 【あらすじ】

ぬらりひよんの孫とバカテスのクロス物です・黙文ですが読んでくれるとありがたいです・

## すべての始まり

僕は奴良リクオ。

悪の総大将、また、蜘蛛猛靈の主ぬらりひょんの血を4分の1継いだぬらりひょんの孫だ。

今、高校生2度目の春が来ていてる。つらうといつしょに登校中。「早くしないと遅れるよつらう。」

「待つてください若ー！」

去年もこんな感じだつたよ。

「まつたくしようがないね。急がないと西村先生に怒られるよ？」「事実を述べている。あれ？あれは…」

「吉井君？」

「あ、奴良君？だつつけ、隣は彼女？イチャつくのもいいけど、異端審問会にばれないように」と、急がないと遅刻だよ？「やばい、そういうば…」

「一緒に行かない？吉井君。」

「うん、お言葉に甘えさせて。」

校門前にくると鉄人こと西村先生が立つていた。

## バカと鉄人とクラス分け

リクオ side

「おまえ等遅刻だぞ！」

相変わらず青以上に声太いな。

「おはよう」ざいます、西村先生、あと遅刻してすみません。」

「おはよう、てつりん、相変わらず髪型、痛い痛い痛い！人が誉めようとしてるのに！」

自滅行為好きなのかな？

「及川、奴良はおはよう。吉井は西村先生と呼べ。あとこれだ、受け取れ。」

クラス分け表だ。僕達は宴会やつててね、理由は花見するだけで七時から夜中まで飲み方が続き、テストに出れなかつた。

「おまえらは休んでなかつたらいい設備に行けたのにな。でも畳とかの方が落ち着くよねー。」

「吉井、おまえは正真証明のバカだ！」

すごい、さすが観察処分者。

「おまえら急げよ、そろそろ始まるぞ。」

そーだ、ゆつくりしてる暇ないんだ。

「行こう、吉井君、つらら。」

「はい、若、じゃなくてリクオ様。」

あー、やつちやつたよ。

「リクオ君、及川さんとはどういう関係？」

やばい、ここはスルーをしよう。

「僕のことはリクオでいいよ。」

「なら、僕は明久で。」

新学期早々友達できてよかつた。

## 第三幕バカと代表とクラスメイト（前書き）

お気に入り登録してくださりありがとうございます。

## 第三幕バカと代表とクラスメイト

リクオ side

「これが最高クラスの設備かー。」

広いし、リクライニングシートを含め色々ある。僕は和風なものが一番いいからここは落ち着かないと思つけど。

「リクオ、ついたよ。」

「僕から行かせてもらうよ明久。」

クラスメートが気になる。

「おくれ「早く座れ三つ指急け者！」はい？」

急け者？初対面なのに罵倒されたよ。

「おつと、すまない。バカだと思つたんだ。」

明久は問題児だつたからね。

「リクオ様。あいつ殺していいですか？」

つらり、それはないよ。マジで。

「今のは学生なんだよ、つらり。」

妖力とか使つたらバレてしまう。

「つららちやんだと！」 × 4 2

つららは人気あつたしね。

「ところで君は？」

赤髪の長身男子の名前が分からぬ。

「俺は坂本雄一。このほとんど最低な人間の集まりであるこのクラスの最高成績者。つまり代表だ。明久も名前なら俺も名前で呼んでも構わない。」

じゃあ、呼ばせてもらおうかな。

「僕は奴良リクオ、こっちが及川つらり。」

「お前等があの、学校でも妬まれるほどイチャついてるカップルというのさ。」

「い？どんな噂？初めて聞いたよ。」

「総員、構え！奴に地獄を…  
この人達酷いな。」

第二幕バカと代表とクラスメイト（後書き）

感想等待っています。

## 第四幕バカと自己紹介とクラスメイト

リクオ side

「すみません、通してください。」

「この人誰？大人だから先生だと思うけど。」

「えっと私はこのクラス担任の…福原です。」

よく見たら黒じゃないか。

「えっととりあえず自己紹介を。廊下側から。」

適当だ。後絶対他にいるよね。首無とか毛嬾樓とか。

「儂は木下秀吉じゃ。一年間よろしく頼む。あと明久は儂の大切な人じゃからだしたら閻魔大王は優しすぎるとおもえるようにしてやるのじや。」

つまり、地獄以上の恐怖か。というより男子の制服着てるから男子だよね？

「土屋康太。」

短いよ、それ以外無し！

「モブキャラ多すぎ。」

「ドイツ生まれなので英語は苦手」

女子だ、珍しい。

「はろはろー、吉井よ「島田さんなんて死んでしまえ、死んで！」

「人に何があつたんだ？」

あと大事なんだろ二回言つたし。  
しばらく続き

「僕は吉井明久。気軽に皇帝陛下と呼んでください。」「うわー。

「校庭兵火ー！」×42

変換ミスじやないはずだ。本人達が間違えてる。

「忘れてください。」

「遅れてすみません。  
遅刻がまだいたのかな？」

## 第四幕バカと血口紹介とクラスメイト（後書き）

感想やリクエスト待つてまーす。

## 第五幕バカと血口紹介と姫路瑞希

リクオ side

誰だ？あの人は。見たことない。

「姫路さん。」

明久が手を振つてゐるといつ」とは知り合いかな？

「吉井君？」

何故あちらは疑問系？

「えーと、姫路さん自己紹介を。」

黒が教師勤まるか不安なんだけど。

「えつと、姫路瑞希です。よろしくお願ひします。」

ひめ、じみずきとか言われそうだな。

「あのなんでいるんですか？」

どういう意味かな？

「明久、姫路さんは有名人なの？」

明久、そこまで驚かないでくれ。

「姫路さんは成績は上位に必ず入つてゐる上に発育良好。否のうち

どころがないよ。」

ふーん、最後はあれだろ、明久の好みなだけだろ。

「えつと、試験の時、熱で…」

ならこのクラスでもおかしくないな。

「熱？ああ、化学の奴だろ、あれは難しかつた。」  
はい？

「俺は弟は事故つたらしくて…」

「彼女が寝…」

「裁きの時だ！殺つてやる！」「…」の学年の平和の為に…」

「おお！」×もぶ男子

バカというより残念すぎる

「とにかくよろしくお願ひします。」

あつ、  
明久の横  
だ。

## 第六幕バカと血口紹介と 試召戦争計画

リクオ side

「雄一、リクオ、お話があるんだけど。  
何の話？」

「後で話すよ。それより姫路さんは体調大丈夫なの?  
自分が話持ってきて、それよりはあんまりと思う。」

「よ、吉井君?と坂毛?...?」

「雄一は途中までしか覚えてもらつてない。ドンマイ。」

「坂本だ。宜しく頼む。」

「いえ、こちらこそ。」

「そこ、静かにしてください。」

「黒、そこは見逃してよ。」

「ダン!バラバラバラ

「換えをとつてきます。ちやふだいが折れてる人は言つてください。」

「何故? やっぱり...」

「木工用ボンドを持つてくるので。」

「よし、今だ明久、リクオ、廊下にいへや。」

「ああ」×2

「実は僕、試召戦争を仕掛けようと...「秀吉と姫路の為か?」  
「何故わかつたんだ!」

「やっぱりそう、だろ?と思つた。でも秀吉は男じやないか。」

「まあいい、俺もしようと思つてたしな、あと姫路や秀吉、及川の  
為になるしな、だろ?リクオ。」

「僕個人的に大丈夫だけど、つらうとかは、きつそだしね。」

「おつと、戻つてきやがつた、早く戻るぞ。」

「そういうや、どこを攻めるんだろ?」

## 第七幕バカと血口紹介と試召戦争計画2

リクオ side

「坂本君、君が最後です。」

「言つのか？雄一。」

「俺は坂本雄一。呼び方はどうでもいい。それより…やつぱり言つんだな。理由は知らないけど。」

「俺はAクラスに試召戦争を申し込もうとした。」

「何故一番上なんだろ？」

「俺達が勝てる分けないだる。」

「姫路さんと結婚したい。」

「これ以上、設備落としたくない。」

「つららちやーん、僕と楽しいことしようよー、グベラッ…」

「ナイスタイミング！変質者は早めに退場しないとね。」

「勝てる要素はある。まず、あそこで、及川と姫路のスカートをのぞいてるのがムツツリー（寡黙なる性識者）だ。」

「キヤツ。」

「なんだつてー！」×42

「そこまですごいんだ、ムツツリー」というあだ名は。

「リクオ様、じゃなくて若、どういう意味ですか？」

「この人、僕を地獄に導く気か？」

「ダメじゃないか、つらら。僕はリクオだからね。」

「変な誤解が出来る前に。」

「せつかく虚位の下着はリクオ様の好みにあわせたのに。」

「僕の好みっていつたい何だ？」

「話進めるぞ。姫路、リクオ、つららはつらの主力だ、期待してい

る。」

「へー、ぼくつて主力に入ってるんだ。」

「吉井明久だつている。」

空気が重くなつた。

## 第八幕バカと戦争と戦線布告。

リクオ side

「吉井明久？」

「知ってるか？」

「俺は知らん。」

「俺も。」「俺も。」「俺も」「俺も」…

数分前に自己紹介したばかりだよね？

「よく聞け、明久は觀察処分者だ！」

それは、もしや？

「バカの代名詞！」

やばい、なぜ、九割の男子がハモつたんだ？

「ちがうよ、ちょっとお茶目な…」

そいつは違うだろ。

「ああ、バカの代名詞だが、簡単にはなれない。成績最悪な上に問題を起こしまくった生徒のみに送られる、バカの極みには最高の勲章だ！」

あつかいひどいな。

「明久、特別仕様の説明しておけ。」

「僕と召喚獣はリンクしていて僕が命じたことを意のままにできる万能型さ。」

「明久、痛みを伴う件を忘れてるぞ。」

「別にいいじゃないかー！」

「（つむぎ）から宣戦布告にいつてこい。」

下位の死者は酷い目にあつ。

「絶対痛くなるよね？」

明久が気づいてる。すごい。

「大丈夫、俺を信じろ。」

信じちや駄目だと思うのは僕だけ？

「行つてくるよ。」

ギヤアアアアアアアアア！  
明久の悲鳴じやありませんように。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0175y/>

---

バカと妖怪と召喚獣

2011年11月27日23時00分発行